

4. 資質や能力

『資質や能力』という言葉は、中央教育審議会第一次答申における児童にはぐくむべき「生きる力」の中に、「いかに社会が変化しようと、・・・・よりよく問題を解決する資質や能力」と、取りあげられています。また、創設される『総合的な学習の時間』のねらいには、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」とあります。

21世紀に向けた新しい教育では、この資質や能力の育成が大きな課題となります。

資質や能力とは

『資質や能力』とは、広辞苑によれば、

『資質』…生まれつきの性質や才能。資性。天性。

『能力』…物事をなし得る力。はたらき。

とある。

『資質や能力』は、子供たちが対象とかかわる時に発揮される性質や才能のことである。

のことから、総合的な学習では、その子が生まれつきもっている性質・才能が、学習活動において呼び覚まされ、自ら見付けた問題を解決するために発揮される。そして、その過程で身に付いた力が、さらなる資質や能力として獲得されていくことを目指していると考えることができる。

総合的な学習において大切にしたい資質や能力は、例えば、

①対象や現実社会の問題への興味・関心

②課題を発見していく力

③問題を分析・考察する力

④情報の収集・選択する力

⑤情報を発信していく力

⑥「もの・人・こと」を関連付けていく力

などをあげることができる。学習活動においては、子供一人一人の資質や能力を捉えて指導することが大切である。